

1日目 (9月9日) セッション概要 - III

PS-1 案件獲得におけるPMの役割 13:10 キャプチャー概念 ～提案段階起点の品質管理～

シップレイジャパン株式会社
代表取締役 北村 和彦

【セッション概要】

欧米でスタンダードとなりつつある「キャプチャー（案件獲得）」というコンセプトに基づき、PMがどういった段階から営業活動にライン参加すべきか、また案件獲得において、セールスチームとPMがどのように連携をするべきかについて、キャプチャーコンセプトの紹介とともに解説を行う。セールスチームとの連携不足の解消のために、PMはどのように能動的に動くべきか、組織としてどのような役割分担を意識するべきか、それらのツボについて話を進める。

【講演者略歴】 1960年生まれ。慶応義塾大学法学部法律学科卒 アクセンチュア パートナー、セビエント株式会社バイスプレジデントを経て、独立。2002年株式会社ドリームスキルパートナーズ設立、2009年 シップレイジャパン株式会社設立。

PS-3 業種業務に精通したPM人材を育成せよ 15:35 IT医療業種スペシャリスト達の終わらなき挑戦

富士通株式会社 ヘルスケアソリューション事業本部
医療ソリューション事業部 佐々木 詠子

【セッション概要】

国のIT政策が進むヘルスケア分野において、医療分野ITプロジェクトをマネジメントするSEには、従来のITやマネジメントのスキルに加え、お客様に提案できるレベルの医療業務スキルを併せ持つことが必要不可欠となってきている。このような人材育成を急務と考え、業種スペシャリスト自らが積極的に推進した人材育成の取り組みについて成果を報告する。本育成手法はヘルスケア分野に止まらず、他の業種、業態にも展開でき、同様の効果が期待される点にも言及したい。

【講演者略歴】 大阪大学薬学部薬学科卒、富士通株式会社に入社。医療情報技師。病院向けオーダーリングシステムの導入を担当後、電子カルテシステムソリューションの立ち上げに携わる。現在は、医療業種スペシャリスト育成のための企画立案、コミュニティ活動推進を担当する。

PS-2 製造業ソフト開発に適した組織構造 14:15

株式会社 堀場製作所
製品化設計部/マネジャー 下野 善弘

【セッション概要】

プロジェクトマネジメントの知識体系では、機能型組織、プロジェクト型組織、マトリックス型組織、PMO等が論じられているが、より複雑な組織構造が必要とされる現場も多い。例えば、いくつかの分野の事業を継続している会社において、プロジェクトの成功と並行して人材育成を成功させるためには、役割別の階層、技術者の能力、分野別のチーム分割を考慮した組合せ型の組織構造が必要である。今回は、製造業ソフトウェア開発に適した組織構造について、実例や経験を基に考察した内容を発表する。

【講演者略歴】 株式会社堀場製作所製品化設計部マネージャ、兼モスクワ駐在員事務所所長。1983年入社以来、自社製品のソフトウェア開発、マネジメントに従事。PMAJ関西幹事、関西P2M実践事例研究会オプショア分科会推進リーダー。

PS-4 国際プロジェクトに通用する人材育成の方法 16:40 国際宇宙ステーションとはやぶさの事例

宇宙航空研究開発機構
執行役 長谷川 義幸

【セッション概要】

宇宙機構では国益をかけて成功させなければならない宇宙国際プロジェクトがある。米欧の宇宙先進国と国際交渉をしながら協調と競争をし、先進技術と先端科学を獲得して科学技術立国・日本の存在を世界に示してきた。国際プロジェクトを成功させるには技術を知った国際交渉のできる人材が多数必要であり、実業務の中でPMやエンジニアを育成している。国際宇宙ステーション「きぼう」と惑星探査衛星「はやぶさ」の事例をもとに工夫して成功した実例をお話しします。

【講演者略歴】 1976年:宇宙開発事業団(現宇宙機構)入社。気象、放送、通信衛星等の地上運用システム開発を担当。1990年より国際宇宙ステーション「きぼう」開発に従事。2009年4月より国際宇宙ステーションと月・惑星探査プログラム(はやぶさ、月探査計画)を担当。現在に至る。

カフェ・ド・eシンポ 9月9日(木) 9:15~17:45 2F 平安

“参加者交流の場” “展示コーナー” “ドリンクサービス”

出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内及び部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
プラネット株式会社	「PM標準10のステップ」「PMP®受験対策」各種アドバンスコースをご紹介。公開コースは、150回を超え、わが国最多の実績。
ITエンジニアリング株式会社	「Oracle PRIMAVERA」などのEPMシステム構築実例や、PMOアウトソーシングサービスなどのご紹介を行います。
株式会社アイナス	EVによる弊社プロジェクトマネジメント「PM-BOX」の展示。
アイシंक株式会社	プロジェクトを成功に導く効果的なPM研修プログラム、チーム力診断等サービスのご紹介。
株式会社マネジメントソリューションズ	PMO実行支援・PMコンサルティング・PMTレーニング・PM管理ツール各種サービスのご紹介。
日揮情報システム株式会社	IT企業、エンジニアリング企業向けのプロジェクト・マネジメント・ツールの展示。

2日目 (9月10日) セッション概要 - I

A-1 21世紀を生き抜くためのPM:プロジェクト&プログラムマネジメント 10:00 考え、企画し、行動し、外部環境からの反応に適切に行動能力があなたの生涯を支える

有限会社 経営組織研究所
代表取締役 渡辺 貢成



【セミナーの狙い】

グローバル競争に勝ち抜くために、How to のPMから展開し、What to のPMを理解しよう

【セミナーコンテンツ】

- アナログ時代の戦略からデジタル時代の戦略への転換。あなたなら何をやるか!
- 新興国市場で何が起きているか。日本を追い上げる勢力の動きと、その成功事例
- これらの外的環境に対して、P2Mをどのように役立てるか。プロジェクト成功の仕組みとは何か

【受講をお奨めする方】

経営者、経営企画者、研究開発者、プロジェクトマネジャー、IT発注者担当者、ベンダーITプロマネ

【講師略歴】 職歴:日揮・石油精製(ドミニカ、ブラジル)原子力関連プロジェクト事業副本部長、有人宇宙システム株式会社(国際宇宙ステーション計画で利用・運用・安全・宇宙飛行士育成を担当する企業)専務。JPMF初代事務局長、P2M創設委員会事務局、P2Mガイドブック改定委員長、PMC、PMS講師、東北大MOT講師、北陸先端科学技術大学MOT講師、PMAJ理事、東京P2M研究会代表

A-2 その対策で本当に同じ失敗しませんか? 10:00 ITプロジェクトのなぜなぜ5回 2010

株式会社 富士通アドバンスエンジニアリング
共通技術センター PMO推進室 担当部長 小原 由紀夫

【セミナーの狙い】

トヨタ生産方式(TPS)において真因追究手法として「なぜなぜ5回」が使われている。しかし、ITプロジェクトでの適用では、最適な対策を導けず、同じ失敗が発生してしまうことがある。これは、分析の焦点が曖昧なことと、実施後の真因の影響確認が不十分であることが原因とわかった。1年間のPMAJ-IT-SIGのWGの研究により、従来のITプロジェクトのなぜなぜ5回の前後に、「問題の識別」、「真因の検証」の2つのフェーズを追加した。本講演では、新たな2つのフェーズと、全フェーズを貫く価値共有を中心に述べる。

【セミナーコンテンツ】

- 1.分析の課題と解決方法、2.問題の識別、3.なぜなぜ5回(階)、4.真因の検証、5.価値共有について

【受講をお奨めする方】

1.IT関連のPM、リーダー、2.IT企業の経営者、部長課長、3.TPSに興味のある方

【講師略歴】 1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。2009年PMI® the BEST of BESTのロゴを贈られた米国ケイデンスマネジメント社認定講師としてグローバルPMメソッドを普及し、TPSのセミナーと実践支援をしている。PMP®。PMAJ会員。PMI®会員。PMAJ-IT-SIG「TPSに学ぶPM-WG」主査。

B-1 PMBOK®ガイド解説 13:45 米国PMI®のプロジェクトマネジメント知識体系とその位置づけ

株式会社 ピーアンドアイ
PM教育・コンサルティング本部・ディレクター 内藤 裕一



【セミナーの狙い】

PMBOK®ガイドは版を重ねて第4版となり、内容はますます洗練されてきた。PMP®取得者は30万人を越え、プロジェクトマネジメント知識の標準として広く認められて来ている。このPMBOK®ガイドの概要を解説し、米国PMI®のプロジェクトマネジメント知識体系を理解する。PMBOK®ガイド第4版と整合性をもった、プログラムマネジメント標準第2版、ポートフォリオマネジメント標準第2版も出版されているので、これらの概要と位置づけを解説する。

【セミナーコンテンツ】

PMBOK®のフレームワーク、9つの知識エリア、5つのプロセス群、42のプロセス、及び、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、プロジェクトマネジメントの概要と位置づけの解説。

【受講をお奨めする方】

PMBOK®ガイドの内容を知りたい方、PMP®取得を目指す方、プロジェクト・マネジャー、プログラムマネジャーの方

【講師略歴】 日本IBMにて、大規模システム・インテグレーションのプロジェクト・マネジャー、プログラムマネジャーを務める。アクセンチュア、日本シリコングラフィックス、EDSジャパンで、アウトソーシング・オペレーション担当ディレクター、システムインテグレーション本部長、ソリューションセンター副本部長などを歴任。PMAJ研修2部副部長、国際大学非常勤講師

B-2 OJT依存の人材育成:破たんと対策 13:45 「底上げ教育」から「トップガン育成」へ!

PS研究会、有限会社 デバッグ工学研究所
法政大講師 松尾谷 徹、IPA 原田 奈美



【セミナーの狙い】

本格的にPMが導入され10年、日本の高度技術者(ITSS:レベル6/7相当)の比率は減少の一途をたどり、09年の調査では比率が0.9%と絶滅危惧種に達した。この事実は、人材育成の中心であったOJTが、PM配下では残念ながら機能していないことを示している。このままでは、企業は滅亡するので、OJTに代わるトップガン育成について、実態調査と事例を基に解説する。

【セミナーコンテンツ】 経産省のIT人材育成強化加速事業の中で、成功したエンジニアの「モデルキャリアパス」として、90名のインタビュー調査が行われた。この調査に加わった原田が、高度人材のキャリアパスの実態について解説する。高度人材育成課題の分析から、具体的な対策案、をれらを自ら試行している「トップガン育成」や「ハイタレント育成」の事例について松尾谷が解説する。

【受講をお奨めする方】 人材育成の戦略や企画に関連する方、後継者を育成したい方

【講師略歴】 PS研究会/IT-SIG:PS研究会は2002年から人材育成や仕事意欲の研究活動を行っている任意団体、松尾谷が代表を務める。IT-SIGでは、HRと人材育成に関してジョイントしている。●松尾谷徹:1972年NEC入社、2002年退職し現在有限会社デバッグ工学研究所代表、法政大学兼任講師。博士(システムマネジメント)。●原田奈美:外資系IT企業を経て現在デバッグ工学研究所に所属、IPAに出向中。技術士(情報工学)。